

サ  
ス  
テ  
ナ  
ビ  
リ  
テ  
イ  
報  
告  
書  
二  
〇  
二  
四



株式会社エフコムは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

株式会社 **エフコム**

F-COM Co.Ltd.

ICTソリューションの提供を通じ、お客様のより良いビジネスパートナーとして、経済・環境・社会に積極的に貢献して参ります。



## INDEX 【目次】

■ トップメッセージ	3
■ 特集1 【シュナイダー・エレクトリック社からのサステナビリティアワード受賞について】	4
■ 特集2 【ドリーム・ラボ上伊豆島での取り組みについて】	
(1)上伊豆島地区の『お花見』 & 『桜のライトアップ』	6
(2)美化活動について	6
(3)そば教室（そばの実収穫～そば打ち体験）の開催	7
(4)地域のバレーボール大会への参加	7
■ 特集3 【健康ウォーク2024の開催】	8
■ 特集4 【『Connect 2023 in Koriyama, with UDC』 ハッカソンで奨励賞受賞！】	10
■ 地域への貢献（地域社会とともに）	
(1)職場体験学習活動	11
(2)ふくしまシティハーフマラソンボランティアへの参加	11
(3)エフコムBC（ベースボールクラブ）	12
■ 人を育む【エフコムの塾】	14
■ 森を育む【エフコムの森】	16
■ 共に育む【エフコムの輪】	
(1)福島市様・菊池製作所様との包括連携協定	18
(2)「答べんりんく(Touben LinQ)」の紹介	18
(3)「獣（じゅう）マップ」の紹介	19
(4)「メタバース空間」の提供について	19
(5)「水顧電（すいこでん）」の紹介	20
■ データセンターが貢献するサステナブル社会	
(1)データセンターの紹介と環境負荷低減	21
(2)データセンターが高度に共助し貢献する「F C Aセンター相互応援コンソーシアム」について	22
(3)大型ロール紙プリンタ活用によるサービス展開	23
■ 信頼への取り組み	
(1)品質向上（ISO9001）への取り組み	24
(2)情報セキュリティマネジメント（ISO27001）への取り組み	24
(3)ITサービスマネジメント（ISO20000）への取り組み	25
(4)クラウドサービスセキュリティ（ISO27017）への取り組み	25
(5)個人情報保護（Pマーク）への取り組み	25
■ ビジネスインフォメーション	26

## Trusted and Growup (信頼&成長)

～ 100年後も持続可能な企業であるために ～

**エフコムは、国連が2030年までに達成をめざす「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、企業価値を高める活動を積極的に行っています。社員の皆さんとともにSDGsについて様々な角度から考え「誰も置き去りにしない」世界の実現をめざします。**



私たちは「チームエフコム」の精神により「Smart thinking for you」の文化を醸成し、「お客様と共に感動を創造する企業」を目指し活動しております。

また、DX(Digital Transformation)の進展により、近未来のサステナブル社会(Society5.0)への変革が進む中、当社の果たすべき役割は多岐にわたり可能性を秘めていると考えております。

多様化するニーズや社会環境の変化をとらえ「デジタル革新」へ積極的に取り組み、お客様や社会が求める持続可能な新たな価値を実現する変革を起こし、共創によりイノベーションを加速させてまいります。

そのような状況下において、持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals)の取り組みの意味および重要性を理解し取り組みを加速させることが必要だと考えております。

当社は、SDGs・ESG (Environment Social Governance) を事業並びに経営へ展開すべく未来志向で何をすべきなのかを考え積極的に取り組んでおります。

毎年発行の当サステナビリティ報告書は、社会における企業価値を考え、社会活動を行っている取り組みを広報してまいりました。当年度はシュナイダー・エレクトリック社(本社：フランス)が主催する2023年度サステナビリティアワードのエンドユーザ企業を表彰する“Impact

to My Enterprise“部門において世界のトップ5社に選定され表彰を受けることができました。当社の様々な取り組みが、グローバルで評価いただいたことを更なる励みに、今後も「未来世代も含めたあらゆる人びとが、豊かで安心して暮らすことができる社会を目指し」更にSDGs経営やESG経営を、本質的かつ普遍的な企業価値と捉え、その実績が広報できるよう取組んでまいります。

また、2020年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの生活様式や働き方に対する変化への対応が求められ、新たな社会の在り方が構築されるなか、エフコムは、今後もいかなる変化にも対応し、「サステナビリティ」を経営の優先課題と捉え、事業を通じた社会課題の解決に全力で取り組んでまいります。



代表取締役社長  
齋藤正弘

# 特集 1

## 【シュナイダー・エレクトリック社からのサステナビリティアワード受賞について】

当社はシュナイダー・エレクトリック社（本社：フランス）が主催する2023年度サステナビリティアワード（Schneider Sustainability Impact Awards）のエンドユーザ企業を表彰する“Impact to My Enterprise”部門において世界のトップ5社に選定され、2024年4月3日にパリ万博ポルト・ド・ヴェルサイユの会場にて表彰を受けました。

この賞はシュナイダー・エレクトリック社のソリューション導入等によって社会的なインパクトをもたらした企業を表彰するもので、当社は主に以下のサステナブルの取組みにおいて評価をいただきました。

### ◆主な取組み内容

#### ○使用する電力の100%再生可能エネルギーを目標としたRE Actionの取組み

エフコムグループは2050年までに使用する電力を100%再生可能エネルギーに転換する「再エネ100宣言」を2021年に行い、RE Actionに参加して地球温暖化による自然災害の発生や食料不足などの環境問題解決に貢献できるよう脱炭素に取り組んでいます。

またJISA（情報サービス産業協会）が大量に電力を消費するデータセンターの低炭素化を推進する「JISA低炭素化社会実行計画」にも参加して、データセンターの省エネにも力を入れて取り組んでいます。

現在、郡山本社オフィス（エディソン・エフコムビル）、会津iDCは100%再生可能エネルギーを使用しており、その他の施設についても順次再生可能エネルギーへの転換を積極的に推進しています。



#### ○環境負荷の低いデータセンターの構築によるエネルギーの効率化とCO<sub>2</sub> 排出量の削減

シュナイダー・エレクトリック社製のHACS（HOT Aisle Containment System）、DCIM（Data Center infrastructure Management）や外気を利用したフリークーリングシステム等の導入によりエネルギー効率を高め、データセンターの電力使用の効率化を示す指標であるPUE（Power Usage Effectiveness）で1.26を実現しています。これは一般的なデータセンターのPUEを1.8と仮定した場合、年間で2,700Mwh、37%の電力削減効果があり、CO<sub>2</sub> に換算すると1,200tの排出削減に相当します。



水冷式空調を採用しホットアイルを完全密閉したモジュール型ラックを採用

#### ○廃校（旧郡山市立上伊豆島小学校）を利用したドリーム・ラボ上伊豆島のオフィス環境整備と太陽光発電による電力の創出

使われなくなった廃校をオフィス環境に再生し、2023年より体育館屋根、旧プールへ太陽光パネル（発電能力：50Kwh）および蓄電池を設置して発電した電力を使用しています。

施設全体で使用する電力の約1/3を太陽光発電でまかっています。



廃校を利用したドリーム・ラボ上伊豆島



太陽光パネル

## ○環境保全に向けた「エフコムの森」の維持・整備活動によるCO<sub>2</sub>の吸収

会津若松市に44.5ha（東京ドームの約9.5倍）の森林を有し、この環境を維持、整備する活動を通じてCO<sub>2</sub>の削減につなげています。

林野庁の指標をもとに算出すると「エフコムの森」では年間約391tのCO<sub>2</sub>を吸収しており、これは化石燃料を用いて発電する894,000KwhのCO<sub>2</sub>排出量に相当します。



植林風景

## ○子供たちの健全育成への取り組み

2023年に幼稚園児、小学生を対象とした「BAFジャイアンツアカデミー」を開講し、野球を通じて子供たちの心と体の健全な育成に取り組んでいます。



授業風景



今後も継続して地域社会と連携して持続可能な社会の実現に向けて取り組みを加速させ、地域DXとサステイナブルに貢献して参ります。



授賞式

## 特集 2

# 【ドリーム・ラボ上伊豆島 での取り組みについて】

### (1) 上伊豆島地区の『お花見』 & 『桜のライトアップ』

郡山市熱海町上伊豆島地区の地域行事である「お花見」が開催されました。

当日は実行委員会が準備した手作り料理（豚汁・焼きそば・お汁粉・唐揚げ・牛タン串・玉こんにゃく等）が参加者全員にふるまわれ、ビンゴ大会、カラオケ大会等も行われ楽しく盛り上がりました。



当社からはドリーム・ラボ上伊豆島に勤務する社員及び家族を中心に約40名が参加し、地域の方々と楽しく交流しました。

4月6日のお花見開催時は残念ながら桜が満開ではありませんでしたが、1週間後にドリーム・ラボ上伊豆島の桜が満開となり、今年は初の試みで『桜のライトアップ』を実施し、地域の方々から大変好評を頂きました。

### (2) 美化活動について

ドリーム・ラボ上伊豆島では、2023年度から美化活動を実施しています。

春夏には主に草刈りと草むしりを行い、秋には落ち葉拾いや落ち葉が堆積した側溝の清掃を行っています。また、花壇の整備や手入れも行っています。

2023年度は6回の活動を実施し、延べ130名が参加しました。

2024年度も6回の活動を実施し、延べ141名が参加しました。

活動後には飲み物ととんかつ弁当を配布しており、朝から体を動かして汗をかいた後のとんかつ弁当は格別です。



### (3) そば教室（そばの実収穫～そば打ち体験）の開催

郡山市熱海町上伊豆島地区有志によるそば教室（そばの実収穫・そば打ち体験）に参加しました。地域のそば畑で実際にそばの実を収穫し、約6ヶ月程乾燥させた後、郡山そば同好会のご指導の下そば打ちを体験し、参加者全員で新そばを美味しく堪能しました。

<そば打ち体験>

期日：11月30日（土）

場所：エフコム ドリーム・ラボ上伊豆島 体育館

講師：郡山そば同好会

参加者：上伊豆島地区の皆様、当社社員およびその家族



### (4) 地域のバレーボール大会への参加

郡山市立熱海公民館上伊豆島分館事業の方部対抗バレーボール大会に参加しました。

当社は去年に引き続き2回目の出場で、老若男女の社員14名が参加しました。

全6チーム中、エフコムチームは4位まで健闘し、チーム内や地域の方々と交流を深めました。

また、午後からはバレーボール参加者全員および地域の方々と懇親会にて、手作り芋煮などを堪能しました。地域のみなさん、ありがとうございました。



# 特集 3

## 【健康ウォーク2024の開催】

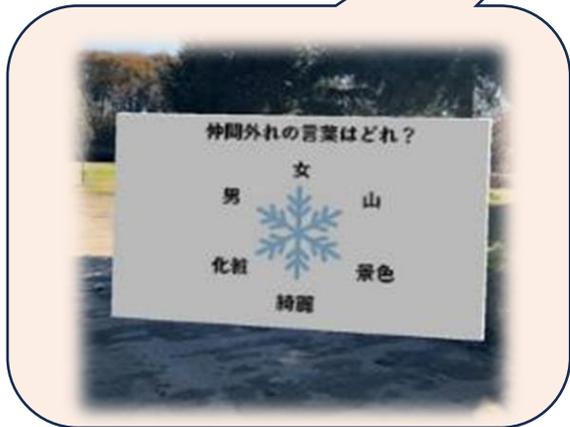
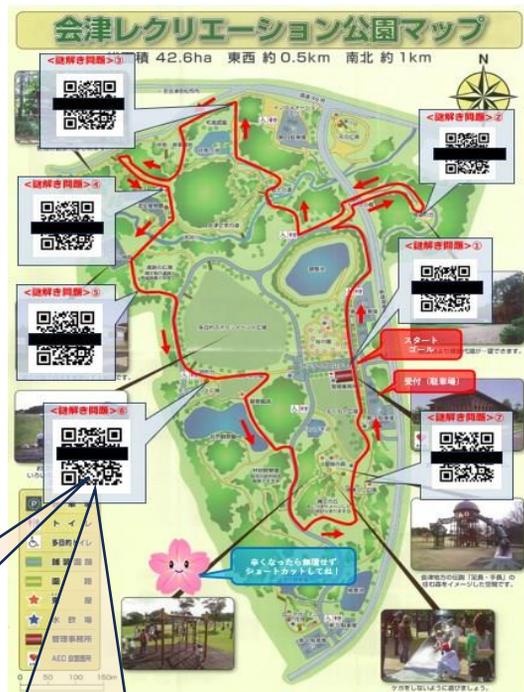
社員の健康促進イベントとして、4月に会津レクリエーション公園で健康ウォークを開催しました。10月には、福島民友新聞社様主催のあいづ新米ウォークに会社として参加しました。

どちらの日も快晴の中、絶好のウォーキング日和となりウォーキングを楽しむことができました。

### ◆会津レクリエーション公園

初の取組としてウォーキングをしながら右マップのポイントで記載のQRコードを携帯電話で読み込むとARのクイズが浮か上がる仕組みを取りいれました。

物理的に看板を設置しなくてもAR上で表示することでウォーキングを楽しみながらARクイズを体験してもらいました。空間に浮かび出るクイズがとても新鮮で頭も体もよい運動になったのではないのでしょうか。



## ◆ 2024あいつ新米ウォーク in 湯川村

豊かな実りに感謝して会津盆地を歩く「2024あいつ新米ウォーク」は11月19日、湯川村の道の駅あいつ湯川・会津坂下多目的自由広場を発着点にて開催されました。全体で約1200人が参加し、コメの収穫が終盤を迎えた田園地帯を約1時間から2時間かけてウォーキングしました。

湯川村や福島民友新聞社などで行く実行委員会の主催で湯川村の勝常寺を經由する6キロコースと会津若松市の神指城跡を折り返す13キロコースが設定されました。

一斉にスタートをしそれぞれの歩幅で歩みを進めました。エフコムとしては、大人41名、子供12名の53名が参加しました。福島民友新聞社様からは、ハンドタオルを始め米の参加賞と抽選会が実施され抽選に当選した方には、写真のような景品をもらえた人もいたみたいです！エフコムからは、後日チョコレートとバスソルトを参加者に配布しウォーキングをしながらたくさんのお土産を手にできました。

田園地帯を歩きながらとても気持ちのいい時間を過ごすことができました。



# 特集 4

## 【『Connect 2023 in Koriyama , with UDC』 ハッカソンで奨励賞受賞！】

### (1) イベントの紹介

今回で10回目となるハッカソン、「Connect 2023 in Koriyama, with UDC」において、エフコムが「奨励賞」を受賞しました！

当イベントは2023年11月25日～26日の2日間にわたり、郡山市民交流プラザにて開催されました。「郡山地域の観光を発掘しよう！」というテーマに沿って、地域に役立つアプリを企画・作成しました。



当日の発表の様子

参加メンバー 6名

チーム名：FCOM Discovery in Koriyama

短い時間の中ではありませんでしたが、各自積極的にアイデアを出し合い、アプリの検討を行いました。



### (2) 作成したアプリケーションについて

「あなたがみつけた郡山」  
～あなたがしりたい郡山～  
◆FCOM Discovery in Koriyama

#### 観光地発掘アプリ

あなたがみつけた郡山の場所を皆に紹介したい、そんなお気に入りの写真はありますか？

このアプリでは撮影した写真からポスターとそれにまつわるトリビアを自動で作成します。作成したポスターを共有して、郡山の魅力的な観光地を発掘しましょう！



### (3) ハッカソンに参加して

イベントの一環で開催されたセミナーのテーマは ChatGPTや自然言語処理に関する内容であり、参加した学生や社会人の各チームも画像・音声生成AIを利用したアプリを多く発表していました。

生成AIを中心とした昨今の業界のトレンドが反映されていたように感じます。同時に、この技術の様々な可能性を感じることができたイベントでした。



# 地域への貢献（地域社会とともに）

## （1）職場体験学習活動

郡山市立第六中学校2年生17名の皆さんをドリーム・ラボ上伊豆島に迎え職場体験学習活動を実施しました。システムエンジニア、サービスエンジニアの職種と仕事内容、そしてエンジニアに求められるスキルはどのようなものかを紹介しました。目をキラキラさせながらたくさんの質問をいただき、エンジニアに興味を持ってもらえたことが何よりも嬉しく感じました。仕事の現場を直接見て触れて感じることを通じて、驚きや発見、進路・職業選択について視野と関心の幅を広げる機会になればと思います。



## （2）ふくしまシティハーフマラソンボランティアへの参加

ふくしまシティハーフマラソンは、2023年から福島市で開催されている5月のスポーツイベントの1つです。第1回大会に続き2回目の開催となる2024年も約30名のメンバーが大会運営のボランティアに参加しました。

### 【ボランティア内容】

コース内に設置されているエイドステーションと呼ばれる出場者をもてなすエリアにて、給水や福島市の特産品の準備から選手への配布、後片付けまでを担当しました。

ボランティア活動中は配給や準備のかたわら、自然とランナーの皆さんへ応援の声掛けが飛び交っていました。

今後も福島県内での地域貢献、活性化に寄与できるよう努めてまいります。



### (3) エフコムBC (ベースボールクラブ)



エフコムBCは、2021年3月から新たにスタートしたチームです。エフコム社員を中心に各企業のメンバーが集い、福島県伊達市を本拠地としています。高校や大学を卒業後も、志を持つ野球人が「野球でも仕事でも輝く」をスローガンに切磋琢磨し、常にチームや職務における頂点を目指して研鑽を積んでいます。

次世代の地域社会を担う社会人の育成



**野球で福島を元気に！**

繋げよう絆・広げよう地域の輪

エフコムBC HP →



社会経験豊富な選手、野球を学問として勉強してきた野球人が地域に根付き、次の競技世代を育てていく活動に貢献しています。

また「野球で福島を元気に！」を具現化すべく、福島県の野球レベル向上、地域社会を担う人材の育成など、循環型の仕組み構築も目標の1つとして取り組みます。



# 2024年度シーズン 大会成績

- 【5月】 第27回JABA福島市長杯争奪野球大会  
第95回都市対抗野球一次予選福島県大会
- 【6月】 第48回全日本クラブ野球選手権福島県大会
- 【7月】 第48回全日本クラブ野球選手権二次予選東北大会
- 【9月】 **第48回全日本クラブ野球選手権全国大会**
- 【10月】 第30回JABA東北地区連盟会長旗争奪野球大会（クラブの部）  
第18回JABA毎日新聞社杯社会人選抜野球大会



優勝  
優勝  
優勝  
優勝  
準優勝  
準優勝  
優勝



チームは全日本クラブ野球選手権全国大会でこれまでの最高成績となる準優勝を果たしました。この大会で毎年ベスト4以上になること、優勝して社会人野球日本選手権に出場し1勝出来るよう更に頑張っています。



## 大応援団も奮闘！

10月に行われた東北地区連盟会長旗争奪野球大会（クラブの部）において、2日間球場をアツく盛り上げたエフコム大応援団が「連盟会長賞」を受賞しました。



## 伊達市「ほばら大泉球場」のネーミングライツ・パートナーに決定

伊達市様より公告されました「ほばら大泉球場」のネーミングライツ・パートナーに申込みをしておりましたところ、候補者の選定を経て3月19日に契約締結式が開催されました。愛称は『エフコム大泉球場（えふこむおおいずみきゅうじょう）』です。2024年4月1日より5年間ご使用いただけることとなりました。ネーミングライツ事業の目的は、市の所有する施設に対する命名権の付与をすることで、市民サービスの向上と新たな自主財源の確保を図るとされております。

当社は自らが支援をしている野球チーム「エフコムBC」の本拠地である伊達市様に、都市対抗野球をはじめとした各種大会における勝利での貢献と共に微力ながら事業面でもお役立ちできればと考えております。

また、『エフコム大泉球場』の愛称の浸透と野球が取り持つ様々な取り組みにより、子どもたちの健全育成や交流人口の増加など地域の活性化にも寄与できるよう努めます。



# 人を育む【エフコムの塾】

当社の重要な経営資源である『人財』が活躍するための塾を定期的を開催しています。お客様のニーズにお応えするため、開発やプロジェクト管理スキルだけではなく、ヒューマンスキルの向上にも重点を置き、『人間力』の向上を目的に社員自らが講師となり、チームで成長できる取り組みを推進しています。

## 【教育方針】

- ◆企業理念と行動指針に基づく自発的行動と統制のとれた組織体作りを目標とする
- ◆上司・部下が行動、能力、業績の目標を共有し、それらを成長指標とする
- ◆自己啓発と自立型人材の育成を目指す

## ◆エフコムスマイル塾(F-minine活動)

エフコム内女性WG「F-minine活動」が中心となり、全社員に向けて健康やキャリアデザイン、美化活動など職場環境改善へ取り組んでいます。

## ◆SE塾

例年プロジェクトを成功に導くための基本知識や経験を伝えるPM塾と若手育成を目的とし開発基礎知識を深めるよう取り組むSE塾を開講していましたが、今年度よりSE塾に統一し、各部署ごとに取り組んでいる先進事例、スキル、トレンドを捉えた講座とし、個人のスキルアップとSE同士のつながりを強化し組織全体のレベルアップを図るよう見直しを図りました。

## ◆こころ塾

『こころを込めて育成に取り組む』

『こころのこもったお客様対応を』

を実現するために必要なヒューマンスキル、ソリューションスキルの向上に取り組んでいます。

## 【社内教育制度体系図】



## そんな数ある塾の中から、今回はエフコムスマイル塾の活動をご紹介します

### ◆あなたならどうする？

～男女共同参画の視点から災害を考える～

#### セミナー開催

F-nineWGの活動目標である「情報共有・情報発信」の場として、災害に関するセミナーを開催しました。外部より講師をお招きし、本社大会議室、他拠点会議室およびZoomのウェビナー形式を利用し、50名以上の社員が受講しました。



セミナーの受講風景

#### 【講座内容】

- ・防災とは
- ・いつ避難すればよいのか
- ・避難所での生活 など

## Point

### 1. 物をそろえる < 考えること

- なぜ必要なのか
- 自分が居る場所はどこな災害のリスクがあるのか

### 2. ハザードマップで災害のリスクを確認する

- 災害の種類によって避難場所は変わる！

### 3. 食べ物を家（または会社）に準備しておくことが必要

- 7日分の食べ物を準備しておくことが理想。  
普段食べているもの（レトルト食品・フリーズドライ食品・缶詰等）も非常食となるため、「ローリングストック法」を取り入れる。

参考) ○重ねるハザードマップ ○東京備蓄ナビ  
○そなえるふくしまノート

## 感想

#### (受講後アンケートより一部抜粋)

- ・「備蓄」のことばかりを考えていましたが、避難のタイミングや何を備えるべきなのかを『考える』ことが大切だと知り、改めて必要なこと(物)は何か考えようと思いました。
- ・災害というみんながセンシティブな状況だからこそ、より一層自分のこと相手のことを考え尊重し合う必要があると講演に参加しながら思いました。

### ◆活動について

エフコムスマイル塾では、上記以外にも男女ともに参加可能な「女性の健康」に関する女性特有の問題についてのセミナーを毎年度開催しております。今後の活動についても全社員を対象にワーク・ライフ・バランスに関する内容、人権に関する内容など、専門家の方のお話を聞くことができる講座を企画しております。少しでも多くの社員の方に参加していただき、働きやすい職場環境を目指して、社員が生き活きと活躍できる活動基盤構築のためにF-nineWGでは今後も様々な活動・講座開催を進めて参ります。

#### 【開催を検討している講座】

- 女性が生き活き働き続けるために
- ハラスメント防止のための基礎知識と相談対応のポイント
- ワーク・ライフ・バランス～生き方・働き方を考える～
- 椅子ヨガ、エクササイズ
- 休養・睡眠、メタボ対策

など



# 森を育む【エフコムの森】

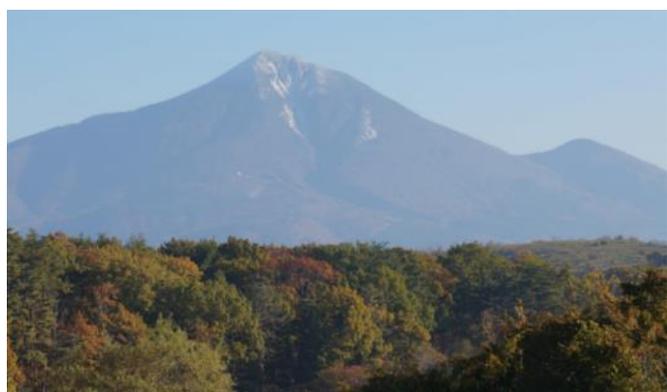


## ロケーションの紹介



- 所在地：会津若松市河東町
- 広さ：44.5ha(東京ドームの9.5倍)
- 樹種：針葉樹と広葉樹の混合林

磐梯山の南西山麓のとても静かな場所にあるのが、エフコムの森です。この森の意味は、環境共生に積極的に取り組む事で森の再生を目指しながら、社員やその家族の憩いの場として親しんでもらう事にあります。森は針葉樹、広葉樹からなり、小川や沼もあるまさに憩いの場としては最高のロケーションです。



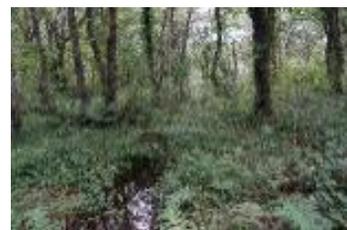
## 水が豊富

エフコムの森には小さな綺麗な小川が流れており、いずれは水芭蕉とホタルが飛び交う環境へ再生したいと思います。ホタルが住む環境を維持する事もかなり大変な努力が必要ですが、皆で頑張ります。



## 木の実が豊富

木の実が豊富なのは森が豊かな証拠です。また、動物達を呼ぶ事になるので自然の回生が働き、更に森が豊かになります。



## 柏(かしわ)の木は百年続く企業の守り木

エフコムの森の広葉樹はコナラが多勢を占めます。その中で柏の木も比較的多く、翌年に新芽が出るまで古い葉が落ちない特性から「代が途切れない」縁起物として柏餅に用いられています。端午の節句に柏餅を食べるのもその由縁です。

百年続く企業を目指すエフコムにとっては正に縁起ものであり、大切にしていきたいと思えます。



## 憩いの場としての活用

社員の憩いの場として活用することを目的として、エフコムの森では、定期的にイベントを開催しています。

2021年9月には山小屋(トイレ完備)も新設された為、社員だけでなく、家族を対象にしたイベント等も積極的に開催し、より一層の活用に向け取り組んでいきたいと思えます。





## 桐の植樹祭の様子

■豊かな森を作るための活動の一環として、2019年から新入社員による桐の植樹祭を毎年開催しています。厳しい寒さと豪雪が特徴的な気候である会津で生み出される「会津桐」は、緻密で美しい年輪を備えた光沢が特徴であり、全国の桐材のおよそ4割が福島県産といわれています。

《2024年の植樹祭の様子》



## エフコムの森 やま学校の様子

■毎年秋に、エフコムの森活用イベントとして「エフコムの森やま学校」を開催しています。

講師に本職のきこりさんを招いて、きこりさんによる樹木伐採の見学、チェーンソー体験、まさかりでの薪割り体験など、多様な活動を行っており、参加者からは普段の生活では体験できない森での作業を体感できると毎年大盛況です。また、今年は5年ぶりとなる芋煮会とBBQも行われ、参加者全員に美味しい料理が振る舞われました。

《2024年のやま学校の様子》



木に吊ったブランコで  
ゆらゆら



チェーンソー体験



BBQ



芋煮会



参加者全員で記念撮影

# 共に育む【エフコムの輪】

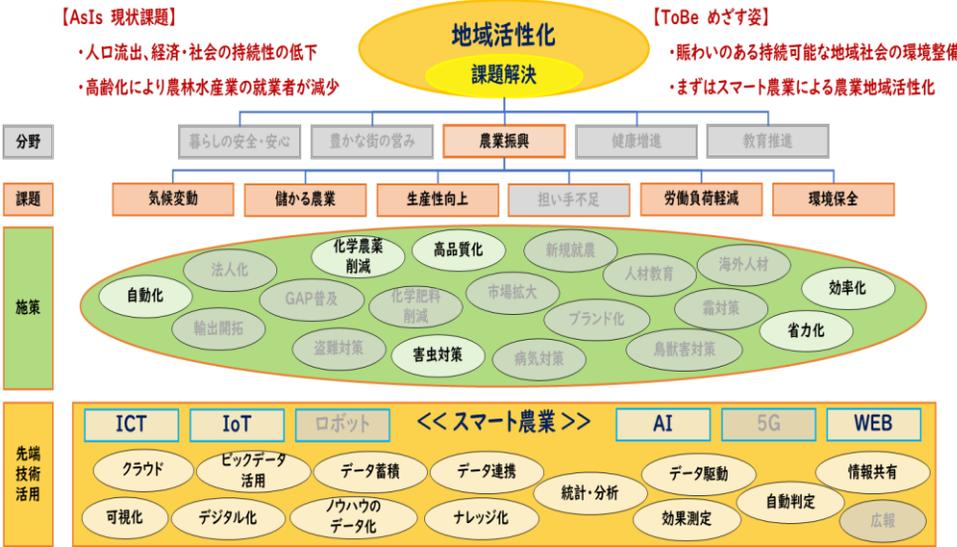


## (1) 福島市様・菊池製作所様との包括連携協定

ロボットやデジタル技術を用いた先端的なスマート農業、地域活性化などを進めるため、2023年9月27日に福島市役所にて3者での「包括連携協定」を締結しました。

2024年度は「フルーツ王国福島」の更なる発展に向けて、果樹農業におけるスマート農業の実装に向けた取り組みを行ってきました。

**包括連携協定 農業振興 2024年度 持続可能な地域社会の環境整備**



**①研究テーマ**  
 果樹生産にかかわる害虫対策情報の可視化を行う。

**②取組状況**  
 果樹生産におけるスマート農業にフォーカスし、生産者・果樹研究所・防除所・JAふくしま様・福島大学様へのヒアリングを行い、害虫対策の可視化が、作業負荷の軽減や費用低減に効果的であるとの仮説を立て、農薬の無駄打ち防止、品質向上といった、課題解決に向けた実証を開始しました。

## (2) 「答べんりんく(Touben LinQ)」の紹介

「答べんりんく(Touben LinQ)～議会答弁検討システム～」は、地方公共団体の議会における質問取りから答弁検討までをオンラインで一元管理するシステムです。サブスクリプション型のクラウドサービスのため、個別のサーバ導入が不要で、契約後すぐにご利用頂けます。Web画面からオンラインで情報が更新され、複数の職員が入力した議会日程や質問内容、担当部局の割り振り、答弁の原案作成から修正、承認まで一連の流れをリアルタイムで共有することで、答弁書作成にかかる事務処理の効率化を図ることができます。

2022年12月から福島市での試験運用を経て、2023年4月より全国に向けて販売を開始しました。2024年11月現在、20団体にご利用いただいております。

### 4つの特長

- 1. 全関係者が質問・答弁の進捗状況をリアルタイムに共有**  
 オンライン更新で、更新状況をタイムリーに把握。  
 答弁作成／承認／差戻のタイムスタンプを表示し、進捗が見える化。
- 2. ワープロや表計算、紙による管理の手間を削減**  
 質問と答弁は、リアルタイムにクラウドサーバ上で一元管理。PDF出力でペーパーレス化を実現。紙印刷削減により経費も削減。
- 3. 過去議会も含めた膨大な答弁書データを保持**  
 過去議会も含めた答弁情報もデータベースに保持し、同一システムで参照可能。過去議会データを蓄積したナレッジにより類似質問の有無や答弁内容を検索し、答弁作成を支援。
- 4. クラウドサービス (Internet/LGWAN) 低コストでスムーズな導入**  
 クラウドサービスのため、個別でのサーバ導入が不要になり低コストかつ短期間の導入を実現。  
 サブスクリプション型サービスのため、契約後すぐにシステム使用が可能。

答べんりんく

Touben LinQ

登録商標 登録第6698199号

質問取り

答弁作成

答弁検討



### (3) 「獣(じゅう)マップ」の紹介

#### 【鳥獣害対策の現状】

近年、福島県内でも野生鳥獣による農業被害が拡大しその被害額は高止まりしています。福島県における2022年度の農作物被害額は、総額で約1.2億円となっており、全国での同年度農作物被害額は、総額で約156億円(対前年度約+0.5億円)となっています。

被害対策の基盤となる情報管理について、農作物被害が発生している「場所」や「被害状況」、捕獲目的の罠の「設置位置」や侵入防止柵の「設置エリア」、捕獲や目撃、観測結果の「獣種や場所」などがあります。これらの情報は自治体の各担当部署に散在していることも多く、一元的なデジタル化がなされていないため、関係者間(県-市町村-地域対策実施隊-地域住民)での情報共有や被害対策につながる分析が困難な状況となっています。

#### 【獣(じゅう)マップ】

2019年度から鳥獣害対策に係る課題を解消すべく、ICT、AI、IoT、デジタルを用いた実証実験を福島大学や会津大学と推進してきた中で、開発されたのが「獣(じゅう)マップ」です。

各市区町村における鳥獣害対策のさまざまな情報をICT技術を用いてWebサイト上に可視化することで、「地域住民」⇔「地域対策実施隊」⇔「地方自治体」での情報共有や効率的な連携を可能とし、対策の効率化・データの蓄積/分析・持続的な管理など様々な用途で効果を発揮します。

◇ 2024年度利用市町村数：11

(本契約8、トライアル3)

◇ 監修：国立大学法人福島大学 農学群食農学類 望月翔太准教授

◇ 特許出願中：整理番号：P20210840

出願番号：2021-199640



<https://juumap.com/>



### (4) 「メタバース空間」の提供について

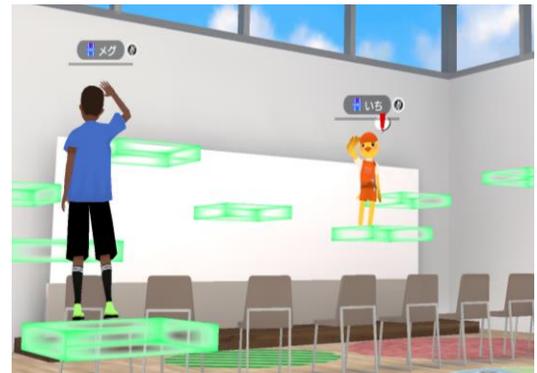
自治体様が抱えている不登校の課題について、ICTを用いたご支援をご提案しております。

児童・生徒に教室へ通ってもらうための第一歩として期間限定でメーカー様と一緒にメタバース空間を提供しました。

メタバース空間内では、メーカー様の支援員にもご支援いただきながら、一緒に同じパレットに絵を書きながらしりとりをしたりアクションで会話をしたりと、グループで会話をするためのきっかけ作りを提供することができました。

今回の実証をもとに、より多くの自治体様を対象にサービスをご提供できるよう取り組んでまいります。

さらに次のステップとしては、ドリーム・ラボ上伊豆島を活用した取組も展開してまいります。



## (5) 「水顧電 (すいこでん)」 の紹介



「水顧電」は、浄化槽維持管理および、し尿汲み取り管理業務を行う保守点検・清掃業者のためのシステムです。



### 【浄化槽とは】

「浄化槽」とは、トイレ排水や台所・風呂・洗濯および洗面などの生活雑排水を微生物のはたらきを利用して処理し、きれいな水にして放流する施設です。

### 合併処理浄化槽の特徴



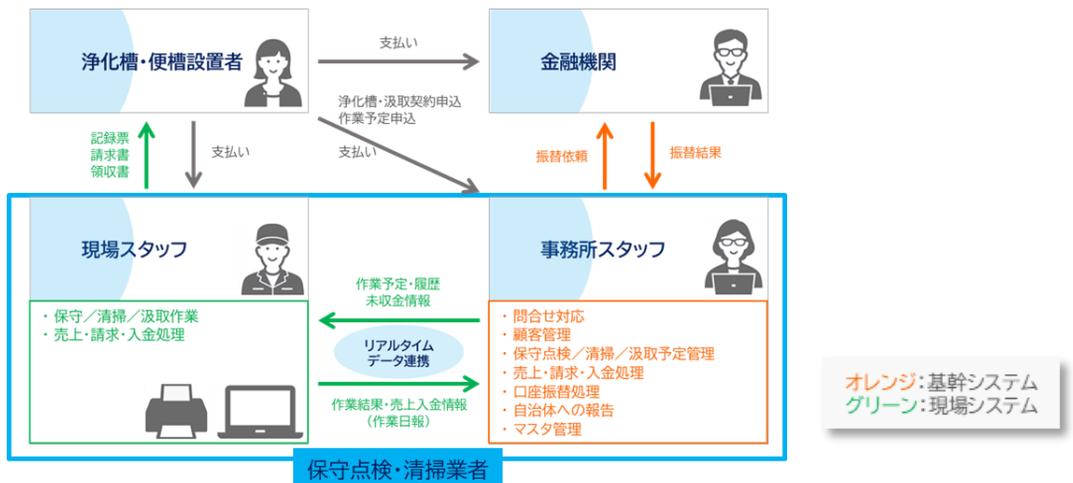
出展：環境省ホームページ

「浄化槽」の適正な維持管理を怠ると機能が低下し、汚泥の流出、悪臭の発生など、水質汚濁の原因となってしまいます。そのため浄化槽には法定点検が義務づけられ、受検しない浄化槽設置者には罰金も科せられます。

### 【水顧電の役割】

浄化槽の保守点検清掃業者は、浄化槽法に基づき「法定検査」「保守点検」「清掃」の3つの業務を行います。それらの業務をシステムで支援するのが「水顧電」です。業務の効率化はもとより、浄化槽設置者への統一された透明性のあるサービス提供により、利用される保守点検・清掃業者の社会的信頼を高め、浄化槽業界の健全な発展に貢献することを目的としています。

### 『水顧電』 浄化槽維持管理／し尿汲取管理システムの概要



### 【水顧電の機能】

「基幹システム」は、浄化槽（設置基）、顧客（設置者）管理と点検・清掃の実施管理、料金管理に加えて監督機関である地元自治体に提出する法定調書を作成する機能を有しています。

「現場システム」は、これまで事前出力した紙情報を元に点検実施記録を手書きしていた作業を、モバイル端末でリアルタイムにデータを参照しながら行える機能を実装しました。（クラウド版で実現）

### 【エフコムの取り組み】

福島県浄化槽協会の賛助会員として、浄化槽業務に携わる皆様の活動の状況を勉強させていただいております。環境課題の解決に少しでも寄与できるように取り組んでまいります。

# データセンターが貢献する サステナブル社会

## (1) データセンターの紹介と環境負荷低減

福島データセンターは CO<sub>2</sub> 排出量を抑制し環境への負荷軽減を図るために、電力消費量を抑える取り組みを実施しています。

データセンターの消費電力の約3割はサーバの排熱を処理する冷却に使用されるのが通説となっており、いかに冷却効率を高めるかが消費電力を抑えるポイントとなっています。福島データセンターはサーバの排熱を完全に密閉し排熱だけを冷却するHACS(Hot Aisle Containment System)を導入し冷却範囲を局所化する事により冷却効率を高めています。合わせてDCIM(Data Center Infrastructure Management)との組み合わせにより、排熱量により空調ファンの回転数を最適に制御する仕組みや水冷式空調機の導入で消費電力を削減する仕組みも導入しています。寒冷地のロケーションを活かし空調機の冷媒を外気で冷却するフリークーリングシステム、太陽光発電の活用、敷地の緑化など様々な取り組みにより環境負荷の低減に取り組んでいます。

### 【福島データセンター概要】



- 立地：福島市、敷地面積 (9,614㎡)
- 建屋：3階建て、免震、延床面積 (3,216㎡)
- 設備：高規格仕様 (高い「信頼性・安全性・可用性」)  
J-Tier 4 相当
- 環境：再生可能エネルギー採用、省エネ設備

#### <主な認証>

- ・ISO/IEC27001 : 2022
- ・ISO/IEC27017
- ・ISO/IEC20000-1 : 2018
- ・プライバシーマーク
- ・FISC安全対策基準 (設備基準)
- ・LGWAN-ASPファシリティサービス登録事業所
- ・医療情報システムに関する安全管理ガイドライン準拠
- ・総務省：届出電気通信事業者1-12-366

### 太陽光発電



太陽光発電をサーバールームで消費

### HACSシステム

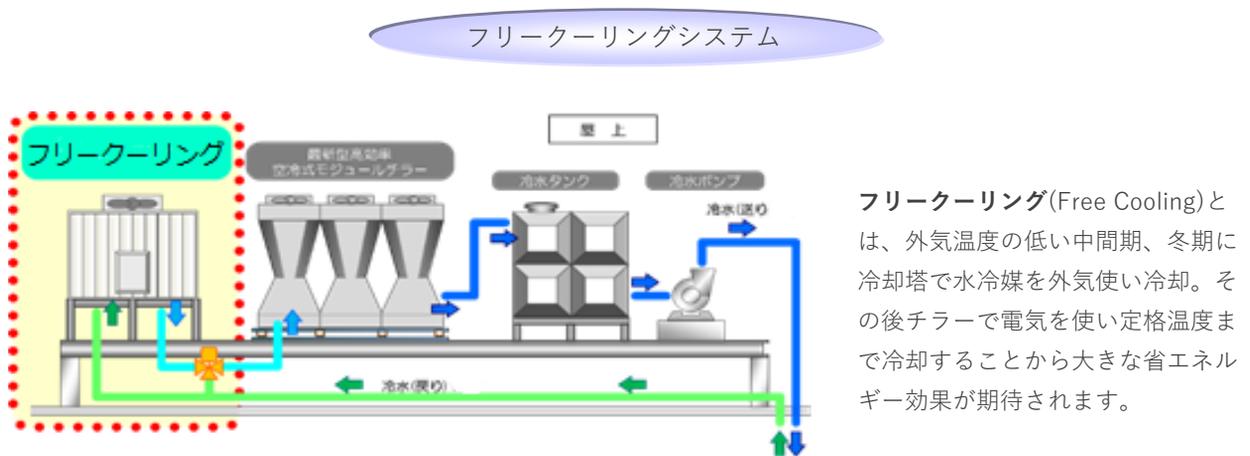


水冷式空調を採用しホットアイルを完全密閉したモジュール型ラックを採用

電力コストは、お客様の負担にもつながります。  
高効率な空調機とフリークーリングの活用により、環境にも、お客様のビジネスにも  
やさしいデータセンター、それが福島データセンターです。

## 排熱の封じ込みとフリークーリングで、高効率で自然環境にやさしい冷却システムを実現

自然環境にやさしいデータセンターを実現するため、東北地方の寒冷な気候を生かしたフリークーリングや太陽光発電などを取り入れてます。自然エネルギーを最大限に活用することで、CO<sub>2</sub> 排出を可能な限り削減しています。データセンター全体の電力消費量の中で冷却の消費電力量は大きな割合を占めます。そこで、高効率な冷却システムを導入することで電力効率としては、PUE1.3を目標に排熱の封じ込めと水冷式空調機を採用しました。



フリークーリング(Free Cooling)とは、外気温度の低い中間期、冬期に冷却塔で水冷媒を外気使い冷却。その後チラーで電気を使い定格温度まで冷却することから大きな省エネルギー効果が期待されます。

## (2) データセンターが高度に共助し貢献する「FCAセンター相互応援コンソーシアム」について

センター相互応援コンソーシアムとして2024年10月に応援協定から10年経過のひと区切りを迎え、今まで以上の進化（深化）を推し進めるべく、3つのWGを立ち上げました。各WG内では、より良い対策を検討するため、活発な議論を展開し更なるBCP向上に努めております。

- ・センタービジネス継続WG（全社に於けるBCP、サイバーセキュリティに於けるBCP検討）
- ・共同備蓄WG（備蓄品目の再検討、共同備蓄品の入れ替え検討）
- ・事業継続WG（災害対応訓練の企画・実施を通じて、各社BCP/BCMの向上を検討）

当社はWG企画立ち上げから参画し方向性を決定すると共に、センタービジネス継続WGに参画し、BCP向上について議論を深めております。

東ブロック内活動としては、主催者として第14回東ブロック会議を企画し、2024年9月に福島県福島市内で開催しました。会議内では各WGに参加頂いている会員より活動についての報告を頂き、活動内容の理解を深める事が出来ました。また、正副ブロック長の任期などについても議論を行い継続検討とすることになりました。中・西の正副ブロック長にもご参加頂き、中・西のブロックの状況や取組についてご報告を頂きました。

ブロック会議以外にもブロック長会議へ参加し運営についての協議や初の試みである防災フォーラムの検討を実施しました。防災フォーラムは2024年10月9日にFujitsu Technology Park(富士通(株)川崎工場本館)にて開催されました。

当社は今後もBCP強化、会員間の関係性の維持・強化を目的とし、ブロック会議、WG活動に積極的に参加し、会員個々及びコンソーシアム全体のBCP向上に取り組んで参ります。

### (3) 大型ロール紙プリンタ活用によるサービス展開

大型ロール紙プリンタでは、帳票のプレプリントと個人毎のデータを同時に印字します。このため、プリントサービスのコスト削減や短納期を実現するとともに、必要な量を必要なときに印刷することができるため、カーボンオフセットへの貢献につながります。

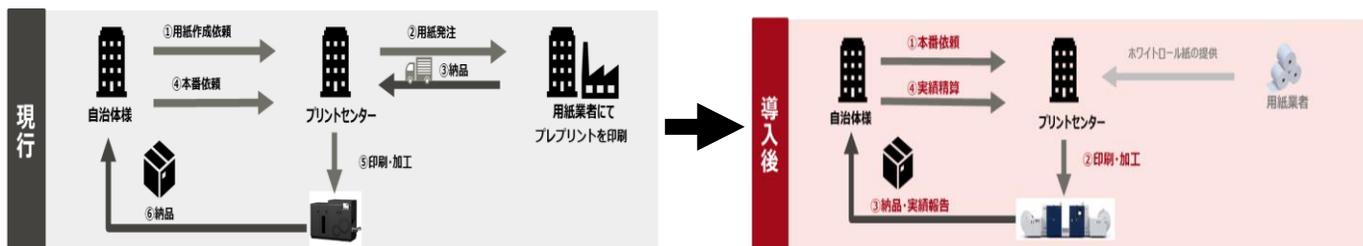
#### ■ 印刷業務の効率化（専用用紙調達からロール紙調達へ専用紙在庫が不要）

##### 【導入前】

- 同じ自治体でも税目ごとに帳票レイアウトが異なる為、税目毎に用紙の発注が必要となります。
- また、法改正や年度が切り替わる度に帳票レイアウトを変更し新たな用紙を発注しなければなりません。

##### 【導入後】

- 大型ロール紙プリンタでは、プレプリントとデータの印字を同時に行うため、作業前の用紙の大量保管が不要になり、用紙素材が同一であれば複数税目でロール紙を共有する事ができます。
- データにて帳票デザインを作成・管理するため、データを変更するだけで用紙校正が可能です。
- 今まで用紙校正にかかった時間を低減し、レイアウトを変更する度に発生した専用紙在庫を削減できます。



#### ■ 印字品質の効率化

##### 【導入前】

- 今までのNLPでは、トナー付着不良による印字欠けや濃度不良が懸念されていました。印字が欠けてしまいバーコードが読めない、印字が剥がれてしまう等の問題を防ぐため、印刷完了後は作業者による目視確認を実施しております。

##### 【導入後】

- 大型ロール紙プリンタでは、プリンタ内部に設置された複数のラインカメラより印字直後の帳票を読み込み、印刷を行いながら複数検査を自動で実施します。
- 画像検査装置にて出力するデータとラインカメラ（光の量をビデオ信号に変換して出力）で読み込んだ映像の照合を行い、文字欠け、印字ずれ、汚れを検知するとともに各種バーコードの読み込み検査が可能です。



#### ■ SDGsの取り組み

- 大型ロール紙プリンタを導入することで、前述の「廃棄用紙の削減」や「用紙の輸送機会の低減」等使用するエネルギーを削減します。
- 一般社団法人 日本印刷産業連合会によって制定された「グリーンプリンティング認定制度」に適合した大型ロール紙プリンタであり、環境汚染物質の削減や省資源・省エネルギー等 環境配慮を示した最も高いスリースターを獲得した製品となります。

# 信頼への取り組み

## (1) 品質向上 (ISO9001) への取り組み

当社のシステム部門は、ソフトウェア開発サービスを行う情報サービス業として、品質の重要性を認識し、2001年10月に品質マネジメントシステム (QMS) を制定しました。

2002年6月に、財団法人日本品質保証機構のJQAマネジメントシステム登録の公表と登録マーク使用の認定を受けましたが、2010年3月より日本検査キューエイ株式会社に認証機関を変更し、2018年7月には2015年版適用規格に変更認定されました。また、2021年度には公共ソリューション部、2023年度にはドリーム・ラボ上伊豆島を登録範囲に加え、より一層の品質向上への取り組みを図っております。



REGISTERED ORGANIZATION

No. 4177-ISO9001

システム本部  
郡山本社 / JAオフィス /  
ドリーム・ラボ上伊豆島

登録組織：株式会社エフコム システム本部

登録範囲：顧客要求仕様に基づくソフトウェアの設計及び開発・導入

(要員派遣・設計開発を伴わないお客様をフォローするための保守・アウトソーシング業務は除く)

登録範囲に含まれる事業所：

システム本部 (郡山本社) / JAオフィス / ドリーム・ラボ上伊豆島 /

株式会社エフコムマーケティング ソリューション事業本部 自治体ソリューション部、産業ソリューション部、イノベーションシステム部

品質マネジメントシステムの目的は、登録組織のプロジェクトおよびプロセスに対して適用され、品質の作り込みと維持活動を継続的に行うことにあります。製品やサービスの品質を継続的に改善し、これまで以上にお客様にご満足いただけるよう努めております。

## (2) 情報セキュリティマネジメント (ISO27001) への取り組み

当社のシステム運用部門は、2000年に情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を制定し、2003年9月にISMS (Ver2.0) の認定を取得、2007年9月にISO27001への移行認定を受けました。

認定規格は当社のDCサービス部、インフラサービス部の基盤運用およびシステム運用に係わる福島データセンター、会津iDCの業務、要員に適用され、認定に基づく情報セキュリティマネジメント活動を日々行っています。

また福島データセンターは、FISC安全対策基準 (設備基準) の認証を受けています。



REGISTERED ORGANIZATION

No.1247-ISO/IEC27001

福島データセンター  
会津iDC

登録組織：福島データセンター、会津iDC

登録範囲：受託計算サービスの運用、ホスティングサービスの運用、ハウジングサービスの監視、クラウドサービスの運用

ISO27001を取得することで、お客様の情報資産を様々なリスクから守り、安定した運用サービスを提供いたします。

### (3) ITサービスマネジメント (ISO20000) への取り組み

当社福島データセンターのシステム運用部門は、2014年にITサービスマネジメントシステム (ITSMS) を制定し、2015年3月にISO/IEC20000-1の認定を取得しました。

ISO20000-1は、お客様のニーズとビジネス要求に合致したITサービスを提供するための一連の仕組みが備わっていることを証明する認証資格です。

登録組織 : 福島データセンター

登録範囲 : 福島データセンターにおけるハウジングサービス

ISO20000を取得することで、当社ITサービスに対するお客様の信用・信頼を高め、サービスの満足度向上に取り組んでいます。



### (4) クラウドサービスセキュリティ (ISO27017) への取り組み

当社のクラウドサービスは、2019年9月に「ISMSクラウドセキュリティ認証 (適用規格: JIP-ISMS517-1.0)」への適合認定を受け、クラウドセキュリティの国際規格となるISO/IEC27017の認証を取得しました。

この規格はクラウドサービスの普及によりクラウド環境のセキュリティ対策の重要性が高まる中で、ISMS情報セキュリティマネジメントシステムをベースにクラウドサービス特有の情報セキュリティ対策にフォーカスした管理策が示されており、当社はこれに準拠したクラウドサービスの運用管理を実施しています。

登録組織 : 福島データセンター

登録範囲 : 福島データセンターにおけるクラウドサービスプロバイダーとしての IaaSサービスの提供

- ・エフコム コミュニティ クラウド
- ・エフコム プライベート クラウド

ISO27001に加えISO27017を取得することで、クラウドサービスのセキュリティ強化につなげ、お客様へより安全で安心なクラウドサービスを提供いたします。



### (5) 個人情報保護 (Pマーク) への取り組み

当社では1998年10月に個人情報保護マネジメントシステム (PMS) を制定し、1999年2月、一般財団法人日本情報経済社会推進協会のプライバシーマーク付与認定を取得しました。また、プライバシーマーク制度は発足から2023年で25周年を迎えましたが、当社が制度創成期からPマークの適格を長年維持していることが評価され、同協会より表彰を受けました。

当社のPマークの適用範囲は、役員、正社員のみならず、契約社員、パート、アルバイト、派遣社員を含む全従業者をを対象としています。

事業カテゴリとしては受託開発業務、情報ソリューションの提供、アウトソーシングサービス、パソコン講習などでは多くの個人情報を業務で取り扱っており、早くから情報保護の重要性を認識した取り組みを行ってきました。プライバシーマークを維持することは、情報セキュリティを維持する意味においても、その活動は有効に機能しています。

情報サービスを扱う企業として、個人情報保護マネジメントシステム (PMS) に沿った運用を徹底することで、個人情報の全てについて適切な取り扱いに努めています。



# ビジネスインフォメーション

## System Integration 導入システム企画

豊富な業務システムの構築経験を活かし、システムのライフサイクルに基づく最適化をサポートいたします。お客様のニーズにお応えできる専門家集団として、企画・構築・運用をトータルにご支援いたします。



## Cloud Service クラウドサービス



最先端のICTと長年培ってきた業務ノウハウから生み出されたビジネスプラットフォームです。従来の枠を超えて、お客様の事業革新とビジネス加速をご支援いたします。

## Software Design ソフトウェア開発

多くのソフトウェア開発実績を保有します。IoTによるデータ解析やモバイルデバイスの新たな活用など、先端システムへの対応もいたします。



## Business Process Outsourcing 業務アウトソーシング

お客様の業務を定型化し弊社スタッフがお客様に代わり業務運用を担当いたします。お客様は本来の業務に資源を集中する事が可能になります。



## Field Support お客様サポート

コールセンター、カスタマーサービスなど、常にお客様の身近な存在でサポートいたします。そしてお客様への安心と満足を提供いたします。

## Product Service パッケージソフト開発

当社の長年にわたるシステム開発実績で蓄積されたノウハウを提供することにより、短期間でお客様にソリューションを提供いたします。



## Information Devices sales Supply sales

### 情報機器／サプライ品販売

PC、タブレット、サーバー等の情報機器を提供いたします。

また、プリンタトナーや各種PCアクセサリなどの消耗品も豊富に品揃え、毎日のオフィスワークをトータルにサポートいたします。



## Media Archive Service メディア・アーカイブサービス

お客様の貴重なメディア媒体を、安全安心にご指定の媒体へデジタル化いたします。

また、デジタル化されたデータを高度なセキュリティを確保した当社のデータセンターに保管し、クラウド上で検索・編集するサービスもご提供しています。

## Security Support セキュリティ対応

日々高度化、巧妙化するサイバー攻撃への対策は、ICTを安心安全に活用していくための大きな課題となっています。お客様のセキュリティ環境が常に最適な状態を維持できるためのご支援をいたします。

## 会社概要

社名：株式会社エフコム F-COM Co.Ltd.  
本社：〒963-8520 福島県郡山市堤下町13番8号  
代表者：代表取締役社長 斎藤 正弘  
設立：1980年9月12日  
資本金：2億7千万円  
売上高：87億6千万円（2024年3月期）  
従業員数：354名（2024年11月30日現在、正社員数）  
関係会社：株式会社エフコムホールディングス  
株式会社エフコムマーケティング  
株式会社マイコム





<本報告書の対象範囲>

(対象期間)

2024年1月1日～2024年12月31日

ただし、一部には2023年12月以前、2025年1月以降の  
考え方、取り組み及びデータ等が含まれます。



エフコムHP



報告書バックナンバー

●発行日／2025年1月15日

●発行／株式会社エフコム 福島県郡山市堤下町13番8号 TEL：024(922)2555 FAX：024(922)2696

●発行責任者／代表取締役社長 斎藤 正弘

●発行部署／広報委員会

●企画・編集責任者／鞠子 政明

※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。